

平成 28 年度

事業所名 : あお空グループホーム釜石

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391100047		
法人名	有限会社 介護施設あお空		
事業所名	あお空グループホーム釜石		
所在地	釜石市片岸町2-13-28		
自己評価作成日	平成 28 年 10 月 1 日	評価結果市町村受理日	平成29年1月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=0391100047-00&PrefCd=03&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成 28 年 10 月 21 日

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

指示される前に自分から気づいて行動する姿勢を評価し、ミスを責めることなく自主性を成長させて行く方針で行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

高台にある小規模多機能センターと高齢者優良賃貸住宅に併設した事業所である。3事業所の利用者は広いスペースで、夫々気に入った場所に座り、談笑しながら過ごしている。この1年、レクリエーションと作品作りに力を入れた取組みにより、利用者と職員のコミュニケーションが深まり、利用者の本音や持てる能力の把握がより容易になってきている。さらに、この事は「生活をケアとして組み立てていく」プラン作成にも反映しされている。勤続5年目を迎える職員も増え、内外の研修にも力を入れており、利用者への声掛けの仕方や関心の持ち方などに変化が見られ、看取り指針の内容もより深いものとなっている。花見会では大勢の地域参加がありするなど、少しずつではあるが、地域コミュニティーの再生に向けた地道な活動を続けている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

[評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

平成 28 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム釜石

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員に意見を出してもらい共通理念を考え統一した考えのもとでサービス提供をおこなう	「笑顔で楽しく」の事業所理念は利用者同士の触れ合いやレクリエーションなどに生きており、利用者と職員の明るい交流にも見られる。法人の理念は廊下や事務所に掲示し、今年は企業理念の浸透を図ることを目標にしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の復興は少しずつ進んでおり、それに合わせて、施設としてもかかわりを深めていきたい。	復興が進む中で、事業所から出向く環境にはないが、運営推進会議委員の声がけにより大勢の参加を得て花見会を開催した。また、秋には片岸虎舞や小中学生も参加する民謡や踊りがあり、保育園とのクリスマス交流会は、利用者の笑みが見られる場となっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方から利用相談の際に認知症に関する悩みの相談を受けている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業報告に対する質問や改善の指摘を運営に生かす努力はしている。	会議は小規模多機能ホームと合同で開催し利用者の状況や行事などの話し合いが行われている。委員からは外部評価の内容や防災対策の見直し、広報の活用等活発な提言がなされサービス向上に生かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役所が主体となって連絡会議を開いており、毎回参加するように心がけている。	市からは制度に関する助言や指導を得ている他、地域や独居老人問題など相互に情報の交換を行なっている。また事業所のレクリエーションに際して市から備品をお借りするなど、様々な協力をいただいている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	介護実践の中で機会があるたびに、カンファレンスをして身体拘束に頼らない方法を選択している。	職場で勉強会を持ち、言葉による拘束も含めて、理解を深めている。日々のケアの中ではベッドから転落しない工夫や車椅子利用の留意点などについて話し合いを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束0の手引きを活用し内部研修に取り入れている			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	介護員にも、権利擁護・成年後見制度について学ぶ機会をつくっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実施できている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	出席者の方より意見をいただいて運営に反映させるよう努力している	家族からは来訪時に意見や要望を聞くようにしているが、遠方の方には広報を送る際に利用者の様子を伝えながら要望を伺っている。比較的多い家族の要望は着衣や嗜好品に関するものである。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングや全体の会議の中で意見の集約を図っている。	職員の意見は、朝、夕のミーティング時や連絡ノートで把握をしており、ゴミ置き場の設置場所等環境整備につなげたり、利用者の転倒についてその原因と対応について話し合いが持たれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい環境づくりに取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人材の育成と定着に苦心し努力している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域だけに限らず他市町村の同業者との交流もしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	インテーク段階での失敗は後の関係に大きく影響を与えるので特に注意をはらっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人のニーズと家族のニーズは必ずしも一致していない場合が多いので確認作業は、必須と考えている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ニーズに合わない場合もあるので、他の事業所との連絡、調整に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人および家族の持つ資源活用を考慮し取り組んでいる		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	時間にゆとりのある家族には施設に積極的に出向いて頂き交流するようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	依然と変わらず交流できる環境はできている。	家族や知人が時折訪れ一緒に墓参りに行く利用者もいる。馴染みの人が少なくなっており時折訪れるパン屋さんや床屋さんも馴染みだが、毎日集いホールで交流している3事業所の利用者同士が一番の馴染みの関係となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個室化により閉じこもり防止に配慮している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	その後の経過について家族や事業所に必要に応じて問い合わせしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や欲求に出来るだけ応じる努力はしている。	物づくりなどのレクリエーションの時間は、「散歩がしたい」「花見に行きたい」など、利用者に寄り添いその思いや意向を把握する絶好の機会となっている。居室担当を決め、利用者の思いなどがより把握できる仕組みとしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	独居の方が増加し生活歴の情報取得が困難になりつつあり、今後も様々な工夫が必要になっている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の中で常に見守りを行い異変があればすぐに対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	看護師、介護員と共にカンファレンスを行い計画作成をしている。	計画は居室担当と計画担当者で作成し、モニタリングは他の職員も交えて行う。利用者の希望を入れながら生活を中心としたプランとなるよう心がけ、身体機能が低下した場合など必要に応じ見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は記入出来ているが、ケアへの実践、結果を記入し情報の共有はできていない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設の機能を見て出来る事は直ぐに対応することを旨としている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の実状をみながら今後も関係構築に努めて行く。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族、本人の希望を聴き柔軟に受診の支援をしている	協力医の訪問診療の利用者もいるが、かかりつけ医の受診に際しては家族や職員が同行している。看護師が利用者の情報をとりまとめて家族に提供し、結果はそれぞれ報告しあっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	病院への受診対応、健康管理の実施。重度化した方への訪問診療の実施		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療相談室、病棟看護師と常に連携を図り今後の方針を家族と相談して取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り体制が取れる方は、積極的に取り組むように変化してきている。	利用者、家族の意向を踏まえ、協力医と連携しながら継続的取り組みを行っており、既に看取りを経験している。今年は終末期の精神的支援も含めた看取り指針について、職員間で理解と共有を図りながら更なる体制作りを進めていきたいとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを作成して利用したり、カンファレンスをして対応できるようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	長期にわたる避難の計画・体制づくりはできていない。	3事業所合同の火災避難訓練を消防署立会いで実施している。避難経路が、砂利道のため、特に夜間の車椅子利用者の避難が問題となっている。地域との協力関係はこれからである。	震災時に近隣の10世帯程の方々からの支援があり、地域との協力体制の下地は既にある。広報紙や行事案内を配布するなど事業所としての活動を通じ、地域コミュニティの再生と避難訓練等への協力を仰ぐ取り組みを期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊重の意味を理解して丁寧な声掛けを心掛けている。	人生の先輩であることを常に心に置くことが、敬意を持った声掛けやかかわりに繋がり、特に利用者のペースを大切にした介護を大切にしている。入浴時やトイレ誘導時にはプライバシーに配慮した対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションの中で思いや希望を聞いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日に行いたいことは自己決定してもらい利用者様のペースで過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着衣を選ぶ際利用者様に自己決定してもらい利用者様の意見を尊重している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おやつ、おかずの下準備を共同で行ったり、下膳の手伝い等を一緒に行っている。	外注のメニューだけではなく、手作りの一品とスープ類を加えた食事に利用者は満足し、季節感ある流しそうめん、さんま焼きなど食事を楽しむ工夫を凝らしている。利用者は畑で採れた野菜の下ごしらや、下膳、テーブル拭きなどを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の希望にて小盛りや大盛りなど栄養バランス内で調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔清拭の声掛け、一部介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	可能な限り、トイレ排泄を心がけて支援している。	転倒の危険がある利用者以外は、パンツを利用し自力でトイレに行っている。夜間も尿器を使用している人以外は全員トイレ使用である。排尿パターンを把握しながらできる限りトイレでの排せつ支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録をとり適度な運動や水分補給を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日は決まっているが利用者様の体調、気分により時間帯や日にちをずらして入浴している。また、希望があればその都度対応している。	ステンレスの個浴、檜の浴槽、機械浴の三種のうち檜風呂に人気があり、入浴回数は基本的に週2回としている。入浴中は歌ったり、太った、痩せた等お喋りしながら気分よく入っている。季節により菖蒲湯やゆず湯を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中においても自由に居室で休まれたりしてもらっている。夜間も完全消灯を設けず状況に応じて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師のみに任せず服薬内容もカルテにはさみ常に症状の変化に対応できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一緒に料理をしたり、掃除をしたり、ゆっくりテレビを見たり、話をしたり、したいことを無理なく楽しんで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	担当職員決めコミュニケーションをとりながら対応している。しかし、家族や地域の協力体制はできていない方もいる。	道路整備のため範囲は限られるが、天気の良い日は近くを散歩し、日向ぼっこを楽しんでいる。受診時に家族と出かけ泊まったり、知人とスーパーに買い物に出かける人もいる。事業所では釜石大観音や道の駅、産直にドライブに連れ出している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の能力を見極めて本人、家人承諾の元所持管理をさせている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも対応できるようにしている。携帯電話を所持している方も何名かいる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは季節に応じて季節感のある装飾に変えている。その他温度管理も空調にて過ごしやすい温度に保っている。	中央のホールは3事業所の利用者が共同で利用する食堂兼居間となっており、利用者が夫々好きな場所に座り大勢の笑い声が飛び交う場所となっている。職員と一緒に作った毛糸の椅子カバーや花瓶カバーが部屋を暖かく安らかなものになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ハード面（建物構造）は十分なスペースを確保している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人の希望を尊重しできるだけ取り入れている。	本人の趣味や嗜好を聞き、家族の要望も踏まえた居室となっている。使い慣れた掛け時計やテレビ、家族との写真などを飾り、居心地よく暮らせるようにしている。中にはカレンダーに入浴した日をなどを忘れないよう記録している人もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール、トイレ、台所は広さを保ち安全に過ごしている。		